

# S-Circle の軌跡とロゴの想い

いとう なほ  
伊藤 奈保

(理工学研究科開放環境科学専攻修士2年)

理工学メディアセンターでは2010年度より、塾生による塾生のための相談窓口、S-Circle(エスサークル)の活動を開始した。この活動は、慶應義塾創立150年記念未来先導基金2010-2012年度採択プログラム「学生スタッフによる図書館における新しいコミュニケーションの場の創生」として、未来先導基金の助成を受けて行っている。筆者は2010年から、学生スタッフとしてその活動に関わってきた。

S-Circleの活動内容は大きく分けて二つある。修士課程の学生を中心とした学生スタッフが、下級生の学習や学生生活上の相談にのる「相談業務」と、学生スタッフがメディアセンター内でイベントなどを行う「企画業務」である。相談業務での学生からの相談内容は、授業のレポートや研究活動、履修といった学生生活に関するものだけでなく、単なる雑談というものもあった。企画業務では、メディアセンター内での企画展示やイベントの企画運営、創想ライブラリーの図書選定を行った。イベントなどを通して学生同士の交流や他分野の研究を知る機会を提供することを目標としている。

2010年度は設立初年度ということもあり、企画も相談業務も手探りで進めていくことが多かった。初の試みが多かったためか、企画業務においてはメディアセンタースタッフに頼ってしまう傾向にあり、反省点が多々あった。

2年目は相談業務において大幅な改善が図られた。相談業務の改善を検討する班を設けて、試験期間に「期末試験一緒に勉強しよう！」キャンペーンを実施した。1年目は矢上の学生の利用者が大半だったが、このキャンペーンで日吉の学生が相談窓口を利用するシーンが多く見受けられるようになった。一方で私達学生スタッフは、日吉の理工学部1・2年生の科目の内容を思い出すのに一苦労だった。

2012年度は学生スタッフが半数以上新しいメンバーとなり、相談業務や企画業務において新しい改善が多く実施された。例えば、これまで相談業務において相談シフトに空きが出てしまうことが課題となっていたが、今年は学生スタッフ全員でスケ

ジュールの調整にあたり、シフトの空きが大幅に減少した。また企画業務では、2010年度に大好評であったサイエンスカフェを再度企画したり、初の試みとして生協とのタイアップによる「食生活相談@メディアセンター」を実施した。

S-Circleには全員で決めたロゴがある。「理工学(Science & technology)の学生(Students)の輪(Circle)」が出来るよう、心理学のコンフォート・ゾーンを○が表し、Sが意味する学生(Student)がそこから出ていく=何か、未知のものに挑戦する、その手助けをするのがS-Circle。Sが○の中に収まっていないのも、それが理由である。学生生活においては気の合う人同士、専門に近い人同士で過ごした方が居心地は良いかも知れないが、そこから一歩外に出ることで新しい知見を得ることが出来る。ロゴにはそのような想いが込められている。

筆者は3年弱S-Circleの活動を続けてきた。これまでの大学生活の半分近くになるが、S-Circleの活動を通してそれまでの学生生活では縁が遠かった人々と交流をすることが出来た。学生スタッフには異なった学科の人が集まり、そこで見聞きする研究に関する情報は新鮮なものばかりであった。同時に、それまでの学生生活で私が交流していた世界は理工学部の中でも非常に狭い範囲であったことを知った。他の学生にも交流が出来る場を提供していきたいという思いを新たに、活動の場を広げていきたいと思った。

これからもロゴに込められた想いを実現するように、またメディアセンターが学生の交流の場としてさらに進化するように、S-Circleの取り組みは続きます。



S-Circle Web サイト  
<http://keio-s-circle.jp/>